

2017年1月1日(日)朝10:10~ 降誕節第2、自由交歓会等
1月第1元旦年頭公同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会
説教題：心の清い人たちの幸い

聖書：マタイ 5章1~11節

＜口語訳＞

新約聖書5頁

マタイ 5章1~11節

＜新共同訳＞

新約聖書6頁

マタイ 5章1~11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書6頁

マタイ 5章1~11節＜塚本訳＞

新約聖書75~76頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、マタイ5章8節が中心ですが、神の御子イエス・キリスト様を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、マタイ5:1～11を朗読いたしました。
- ◇マタイ5:8は、「心の清い人たちの幸い」を扱っている箇所です。
⇒多くの説教者や解説者が語られますように、「心の清い人 καθαροι」と自他ともに、認められる人間は、神の御子イエス・キリスト様を他にして、だれひとり存在しません。
- ⇒なぜ、それにもかかわらず、神の御子イエス・キリスト様が、「心の清い人の幸い」を語つておられるのかは、「幸いです」という主のことばに鍵があり、主の傍に集まつた弟子や群衆へのおほめのことばだからです。

本論；

◇本日、マタイ書5章8節から主の使信に思い・心をとめます。

◆マタイ5章8節；使徒マタイは、神の御子イエス・キリスト様の祝福のことばを語っています。

◇3～12節；塚本訳◆幸いな人たち

「8 ああ幸いだ、『心の清い人たち、』(御国に入って)神にまみえるのはその人たちだから。」と、使徒マタイは語っています。

◇8節；「ああ幸いだμακάριοι」は、「イエスの祝福のことば、ほめことば」です。

⇒マタイ自身は、イエス・キリスト様の説教を「目撃」した弟子のひとりですから、マタイ自身の証言記録でもあります。

⇒「心の清い人」は、現実には地上に存在しないという事実を確認しつつも、「心の汚れ、醜さ」をもって、絶望感をもって、神の御子イエス・キリスト様の説教のことばを聞くことは、神の御子イエス・キリストの願いではありません。神の御子イエス・キリスト様の思いに心を近づけることを主はお求めです。

- ◇8節 ; 「心の清い人」の心 καρδία は、人間の思ひの中心のことです。
- ⇒ 「心の清さ」は、「人間の思ひの清さ」でもありますから、「心の清さ」自体が、自分の発想や自己認識から受容するものではなく、「神からの賜物」であることを理解することが大事なのだと気づかされます。
- ⇒ 多くの説教者や解説者が引用します **詩篇51篇** は、イスラエルの王ダビデの悔い改めの祈りとして有名です。
- ⇒ 「イスラエルの王ダビデ」は、部下ウリヤを激戦の最前線に送って戦死させ、その妻のバテシェバを奪い、自分の妻としたことで、預言者ナタンから **神のさばきのことば** を受け、「悔い改めの祈り」をしたのが、**詩篇51篇** です。
- ⇒ イスラエルの王ダビデは、預言者ナタンのことばを **神のことば** として受けとめました。
- ⇒ **詩篇51篇10節** ; 「【口語訳】神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい靈を与えてください。」と、「清い心」の新創造を求めています。

- ⇒そして同時に詩篇51篇17節では、「【口語訳】神の受けられるいにえは碎けた魂です。神よ、あなたは碎けた悔いた心をからしめられません。」と告白、「清い心」の創造のために、「罪汚れた魂・心もからだも」、神へのいにえ・犠牲としてささげると言ったのです。
- ⇒KT師やSY師は、「イスラエルの王ダビデのいにえ・神への犠牲」こそ、神礼拝の姿であると語っておられます。
- ⇒神礼拝を通して、神は、「新創造」をなし、「【口語訳】Ⅱコリ 5:17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」と語られたように、「心の清い人たちは幸いである」と、祝福して下さるのです。
- ⇒勿論、「心の清さ」を大事にする日々を求めていと願いますが、上から生まれるのでなければ、何の意味もないと、神の御子イエス・キリスト様が、ニコデモに語られたことばも、日々心にとめたいと願います。
- ⇒今年、招詞のことばとして聴く時、感謝したい。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
 - ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
 - ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。
 - ◇本日は、マタイ5章8節が中心ですが、神の御子イエス・キリスト様を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、マタイ5:1～11を朗読いたしました。
 - ◇マタイ5:8は、「心の清い人たちの幸い」を扱っている箇所です。
- ⇒KT師は、SY師のご夫人の逝去の時、遺言の聖句詩篇17篇15節を聞き、ドイツのベルリンでの礼拝と聖餐式に参加し、司式の牧師から祝福のことがとして同じ聖書の箇所が語られたのを思い起こされたそうです。
- 「【口語訳】詩17:15 しかしあたしは義にあって、み顔を見、目ざめる時、みかたちを見て、満ち足りるでしょう。」と。

⇒ヨハネ1章18節；「【口語訳】神を見た者はまだひとりもいない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである。」とありますように、**神の御子イエス・キリスト様**を見た者、すなわち弟子たちや群衆は、それを経験しましたが、今日の私たちは、「心」で、「**神が新創造された清い心**」で、**神の御子イエス・キリスト様**を通して、**神礼拝ごとに神**を仰ぎ見ています。

⇒KT師のまとめのことばを引用します。

「心の清い人たちは、幸いであると言っている私自身が、いのちをかけてその道を開いているのではないか、朝ごとに神が見えるではないか、聖日ごとに神が見えるではないか、世の終わりにもそこで神を見ることができるではないか、だから自分を殺さないですむ、他人を殺さないですむ、それどころか自他共に大きく生かされる父なる神の愛の中に生きうる。主はそう呼びかけてくださるのであります」